

宛ら戦時状態

憲兵隊に固られた八幡

軍隊の出動準備成る

八日晝動で全工場が停止を打切る。だが、労働者も不貞の爲に同夜夜間作業も停止するの已むなきに至つたが、夜明け刻が緊急に起きつゝある爲に憲兵隊司令官は、即ち西久留米の各工廠に憲兵の動員を命じ、八日午前十二時久留米各工廠に

憲兵の一隊が來轍し、それを請願を廠から出張し來り八日午後、市中央、南中に憲兵が睡をねらせて徘徊し、時状態の如くである又小倉廠の兵士は、萬一の緊急に備ふべく出動の準備を整へてゐる。(八幡來電)

断じて復業せず

尼寺に隠れて同志愛

労友三派の幹部密議す

同志會、吉岡、友愛會、三派、各工廠の幹部、外三派各三名合計九名の幹部は、今後の態度に就き協議すべく、七日午後九時、重なる急報の報を察して八幡市内久野公園に密會が廠を察承中の警員に発見され、同所を逃れて、尼寺に入り、決議した。

第一、三派は今後大體上於て同一歩調を執り、

第二、三派合同の大演説會は、官憲の停止する所となりし爲り、秘密裡に傳單等を印刷し、三派所屬職工に結束、今後の態度を聲明すべく、八日午後四時を期し、廠裏に一萬部工に配布すること。

第三、今回の事件にて犠牲となりしものに對しては、事件解決後全

體工人大は勿論、場外の有志者よりも、養病金を集集し、救恤又慰問を爲すこと。

第四、九日は決定するも、依然復業を繼續すること。

第五、九日正午を期し、製鐵所七十四工場の職工の中より、各一名宛の代表者を出し、製鐵會議を其所に開會し、製鐵所の態度に對し、大同盟罷業を執行すべきや否やを決議すること。

第六、今回の同盟罷業は、労友會の煽動なりといふ官憲の誘惑は、労友會に應名を擧らし、むに、廠にせざる職工の甘心な買はんとす。各工廠の罪過なりと認むること。

第七、七日午後、製鐵所側の回音は、應算に名を稱して、吾等九職工の要求を遂行して、一箇條にて、も、即除又は、進行を遂期せしむるゝ。場合には、断じて完全復業せざること。(八幡來電)